

# 住民の声

地域で頑張っている方たちの声をお聞きしたく、今回は、奥湊川地区をお伺いしました。

奥湊川地区は、仏が森などを源流域とする湊川沿いの足川、松木、川原田、三堂奈呂、谷口、大平、駄場の7集落からなり、戸数は43戸、人口88人の小集落です。当地区では、平成23年に住民による「地域活性化維持委員会」を立ち上げ、以後、毎月第一月曜日に開催のミニデイや、黄色の旗を玄関先などに日中に掲げて元気を知らせ合う見守り活動、

また、住民の集いの場や健康づくりを目的に「奥湊川グラウンドゴルフ愛好会」を立ち上げ、毎週日曜日と水曜日の午後に参加しているとのことで、お伺いした6月21日には、「区長杯」争奪戦が賑やかに行われていました。更には、豊かな自然環境のもと、9月の彼岸花や6月のホタル、通年の炭焼きなどによる地域おこしにも取組中とのことでした。

区長杯のトロフィーを前に開会式も終えて、いよいよ争奪戦のスタート！

日頃の練習の成果を見せ合いました



▲地域の守り神「正八幡宮」



▲咲き乱れる彼岸花 (H26年9月25日撮影)

「ホタルの里づくり」が行われているふれあいセンター(中段右側)付近の川辺

「元気」を知らせる黄色い旗



## ♡ 田辺孝区長の声 ♡

当地区は、全住民を70歳で振り分けると半々になるほどに少子高齢化が進み、その率は限界集落の目安の50%をはるかに超えて80・7%と非常に高く、集落としては大変厳しいものがあります。しかし、こうした状況をあやぶんだ住民自らが「地域活性化維持委員会」を立ち上げ、「限界集落で何が出来るのか」をテーマに検討し、様々な活動に取組んで来ました。

中でもグラウンドゴルフ

は適度な運動とはずむ会話が好評で、「昼から仕事を休んで来た」「ここに来たら元気になる」などと待ちかねているような状況です。また、これにより連帯感も強まり、地区の行事にも協力が得られやすくなったとも感じています。

## 議会広報常任委員会

- 委員長 宮川 徳光
- 副委員長 藤本 岩義
- 委員 浅野 修一
- 同 池内 弘道
- 同 宮地 葉子
- 同 山崎 正男

議会広報常任委員会も今回から新体制での再出発となりました。前期4年間を振り返って見ますと、震災対策と少子高齢化による人口減が大きな課題でした。しかし、中山間地域のみならず空家が目立つ状況は、この4年間でより進んだとの危機感を禁じ得ません。これからも、住民の皆様と共に災害に強いまちづくりを進め、人口減にも歯止めをかけなければなりません。また、議会広報も「住民が知りたいことを、より分かりやすくお伝えする」を念頭に、よりよいものにすべく努めなければと決意を新たにしています。

広報委員一同

## 編集後記